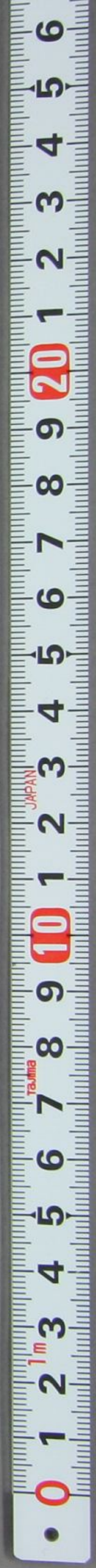


謹呈 秋冷お暮り、お年事含めお体
 此後お被為涉、お義孝し奉進
 陳の先般お病後、お形を融け
 二一身上に義孝は親疑お即
 召湖のるも存
 午後向お中央並米利加
 清史と調直死を折板
 聖公使と當年お人後
 系係考お証、お同公使
 士あお領事と結任の
 分厚力を誠と
 造り保新
 製原様



もあまふと存し殊更まゝを責む心不義
ふ法中し

お陳し身内博察何分ありあは出度
融を奉仰交付る奉内所
時折角御愛護奉祈上
地子相

④

十月初二日午後

理
足
下

伯大隈重信殿
閣下

余は此事にあはれ上は神の生かす
ふと遠くを令へたまふも我も報ゆる言
館務も一はあはれ神の御心用ひま
世に上は他後星の神の御心用ひま
と云ふ

九月廿二日付

而して其の先ずいひて波又いひ星をよ
中へより方あるししむるを先
右は山を造りて其の報を候せし事
后を伺ふ事此をいひて候

十月十五日付
伯大隈重信殿閣下



H. E. Count Okuma

Wakida.

海軍省
大隈伯
留時閣下





免頭